

平成28年度第1回ときがわ町総合教育会議議事録

日 時：平成28年7月19日（火） 10：00～11：40

場 所：就業改善センター3階 集会室

出席者：関口定男町長

教育委員会：船戸裕行教育長、西澤明彦委員、坂下美代子委員、
柴崎政利委員、相澤学代委員

教育総務課：清水誠司課長、林雄一主任指導主事

生涯学習課：石川安司課長

総 務 課：清水健治主幹、小林典明主任

1 開 会：清水教育総務課長

2 あいさつ：関口町長

- ・ 教育の重要性について

3 協議事項

(1) 基調講演

関口定男町長を講師として、「校舎に木材を利用する理由とその効果～ときがわ方式の公共施設整備～」という題目で講演を行う。

- ・ ときがわ町について
 - ・ ときがわ町は7割が山林である。
 - ・ 観光でときがわ町を訪れた人数は、昨年度103万人となった。今後5年間で130万人を目標とする。
- ・ 内装木質化について
 - ・ 内装木質化の目的は、強固にすること+環境をよくすること。
 - ・ 学校の耐震化は内装木質化をやらない。ただやるのは鉄筋である。しかし、日本の国土にあっていない。
 - ・ 内装木質化をすると湿度が安定する。
 - ・ 木は燃えやすいと言われているが、実際は炭素（炭）となり燃えない。その一方で鉄は溶けるため危ない。
 - ・ 鉄骨に木を添えることによって火災に対しても強度が増す。
 - ・ 新国立競技場が同様な工法を検討している（ハイブリット工法）。

- ・ 木を張ることによって調質機能が出る（音を吸収する。）。
- ・ 木は体に良い。ストレスが溜まらない。
- ・ 玉川小学校の実施例を報告
 - ・ 夏休中に施工（35日間）
- ・ 都幾川中学校
 - ・ 結露が少なくなった。
- ・ 吉見町
 - ・ 保健センターを木質化したところ、電気使用量が少なくなった（温度を一定に保てたため。）。
- ・ 木の寿命について
 - ・ 使い方によって何年ももつ。
 - ・ 鉄筋コンクリートは鉄が錆びて膨張するためひびが出る。
 - ・ 鉄筋コンクリートは日本の風土には合わない。
 - ・ 木は外に使っては絶対だめである。
- ・ 森林が二酸化炭素を吸収できるのは40年でピークとなる（このことはあまり知られていない。）。
 - ・ 今は気を使うという意識を持つこと。

(2) 質疑応答

- ・ 教育委員
 - ・ 都幾川中学校の生徒のアンケートによれば、木質化したら勉強ができるような気になった、とか、ストレスがなくなったという結果も報告されている。
- ・ 関口町長
 - ・ 杉の木について花粉症が問題となるが、花粉症は「公害」である。人工林のために増えてきている。
 - ・ 花粉症に対する医療費は3000億円とも言われている。
 - ・ 河川の汚染対策をして魚が住めるようになった。排気ガスも規制をされた。しかし、日本の一番の公害は花粉症である。木を切って植え替えれば花粉症はなくなる。天気予報で花粉を伝える国はない。
 - ・ 日本の環境を良くするのはまず木を使うこと。

- ・ 教育委員
 - ・ 住宅はひさしを長くしてもたせていた。しかし、今はひさしがない。
- ・ 関口町長
 - ・ 住宅で以前は栗の木を枕木として使っていた。一番腐らないため。
 - ・ 将来を担う子供に投資をする。いい子供たちに育ててほしい。
 - ・ 木は切って使うことが大切である。

4 その他

5 閉 会：清水教育総務課長